

オーナーである岩橋さんの愛車、昭和45年式日産スカイラインGT-R (KPGC10型) の納まるガレージは、「岩橋建築」のモデルガレージも兼ねている。独特な八角形の形状は、他ではみることのないユニークなものだ。

Garage 工房
IWAHASHI
SHOW ROOM since 2012

OWNERS VICE

Kazuo Iwahashi



「日頃から住む人のライフスタイルを充実させる家づくりを目指しています。特にクルマやサーフィンなど、男性が趣味を堪能できる家の建築依頼が多いですね。他人とは違う家が欲しいと思ったら、是非一度お問い合わせください」



GARAGE
EXAMPLES

13

日本を代表する名車 GT-R が納まる

昔ながらの職人技で築き上げられた個性あふれる八角形のガレージ

STYLE IWAHASHI ORIGINAL
BUILD IWAHASHI KENCHIKU
OWNER KAZUO IWAHASHI

四角いクルマに対して八角形のガレージを作ると、どうしても無駄なスペースが生まれてしまう。もっとも、そんな無駄なスペースがあるからこそ、ガレージライフを楽しむための秘訣なのかもしれない。他に誰も真似できないような、職人技で生み出される家とガレージ。愛知県半田市にある「岩橋建築」は、そんなユニークな作品を生み出す会社だ。

PHOTO & TEXT_Kazutoshi AKIMOTO 秋元一利
CONTACT_IWAHASHI KENCHIKU
WEB_ <https://www.iwahashi-home.co.jp/>

“箱スカ”は2台目という岩橋さん。購入して4年目というGT-Rは、サイドドラフトタイプのソレックス製キャブレターを3連装したS20型エンジンを搭載する。





普段の愛車はスズキ・ジムニー。このためガレージ内にはGT-Rと共にジムニー関連の、メモリアリアなども並んでいる。



家の構造体そのものがデザイン上のポイントとなる 男の趣味を存分に楽しめるホビー・スペース

左／片側の壁面には造作されたワークデスクを設置。OSB合板の壁は表し仕上げとなっており、そのまま棚としても使用できるため、ミニカーやフィギュアなどがディスプレイされている。
右／ガレージの奥に設けられたくつろぎのスペース。収納スペースも用意されており、ガレージ作業の合間にひと休みすることのできる多目的な空間となっている。



愛知県半田市で建築業を営む「岩橋建築」。現在、2代目として会社を切り盛りするのは、自身も熟練の大工である岩橋和雄さんだ。

施工件数は年間8～10棟のみ。しかも施工エリアも半田市内を中心にしたクルマで1時間圏内限定。マーケットとしては大きな名古屋市内からの建築依頼も、会社から1時間以内の距離になればお断りすることもあるという。頑なに地元・半田市を中心にするのは、「建物の完成後も自分がしっかりと管理していきたいから」という仕事に対する強いこだわりによるものだ。

徹底したポリシーは他にもある。建築業界ではポピュラーな集成材を使わず、無垢の木材を使用すること。さら

に昔ながらの大工の職人技を生かした建築手法により、他人と違った家作りをテーマにしていること。そんな、岩橋さんならではの考え方が如実に現れているのが、社屋に隣接する八角形のガレージである。

「八角形にしたのは敷地の関係もありますが、どうせなら他では見たことがないようなガレージにしたい」と話すのは、その岩橋さん。たしかに八角形のガレージというのは滅多にお目にかかれないシロモノだ。

そのユニークなガレージは、中に入ると天井を見上げると八角形の形状がよく理解できる。垂木が屋根の中央に向かってきれいに配置されており、ガレージの構造体そのものがデザイン上のポイ

ントにもなっている。

構造体を表し仕上げとした壁面は、全体が升目のようになっており、そのまま棚の代わりにも使える。床面にも縞銅板を敷くなど、素材の選択も絶妙だ。さらにガレージの奥には収納を備えたくつろぎのスペースも備わっており、多目的に使用できる空間に仕上がっている。

ちなみにこのガレージには、昭和45年式の日産スカイラインGT-R（KPGC10型）という、マニア垂涎の1台が収まっている。自身が何よりも無類のクルマ好きでもあるという岩橋さん。仕事で携わる家も、「施主が趣味を思う存分楽しめるような家を提案していきたい」と、常々考えているそうだ。



スカイラインGT-Rが格納されたガレージ。余裕のある室内にはヴィンテージのチェアやテーブル、大型のツールボックスなどが設置されている。クルマ好きのお客さんとの打ち合わせなら、きっと気分も盛り上がることだろう。



内部は天井を見上げるとその構造がよくわかる。木造の躯体は、垂木が屋根の中央に向かってきれいに並ぶ。まさに昔ながらの職人技で建築されたものだ。

L字型をした107坪の大きな敷地に建築された古賀邸。前面にも大きなパーキングスペースを残したガレージは2台の愛車をまるまる飲み込む余裕のあるサイズだ。



OWNERS VICE

Yuki Koga

「ボクはもちろん、妻もクルマ好きなので、家を作るなら最初からガレージはないとダメだと思っていました。岩橋建築さんに出会って、その夢がやっと実現しました。ホレンガを使ったフロアをはじめ、クルマ好きならではの視点で様々な提案をしてくれたので、満足のいく家とガレージになりました」



目指したのは飾って眺めるよりも使えるガレージ

夫婦揃ってクルマ好きだからこそ MT車2台が格納されたモダンなガレージ

_STYLE IWAHASHI ORIGINAL
_BUILD IWAHASHI KENCHIKU
_OWNER YUKI KOGA

とにかくガレージは男性の趣味の象徴かのように捉えられるが、古賀さん夫婦にとっては奥様にとっても大事なスペース。真っ黒なガルバリウム鋼板に囲まれたモダンな住宅の一角にあるビルトインタイプのガレージは、それぞれが乗りこなすMT車を格納し、その姿をリビングから眺められるように設計されたご夫婦共通の趣味のスペースなのだ

PHOTO & TEXT_Kazutoshi AKIMOTO 秋元一利
CONTACT_IWAHASHI KENCHIKU
WEB_ <https://www.iwahashi-home.co.jp/>

1600 個の木レンガを敷き詰めたガレージフロアと 2 台分のガレージを一度に開閉するオーバースライダー



2台の車両を格納するガレージには換気扇も設置。
厳冬期にガレージ内で暖気運転することも可能だ。



ガレージシャッターは三和シャッター工業製の電動タイプ。開口部に柱を立てたくなかったため、大きな開口部に合わせて最大級の幅のオーバースライダーを採用。ガレージの開口部は、上部にトラスを組んで強度を確保している。



ホビールームは3帖ほどの小さな空間だが、エアコンを完備。造作された棚やデスクのほかにも、雑誌やCDなどのコレクションが保管されている。



ホビールームとガレージの間にはスライド式の小窓も設けられている。ホビールームで作業している時にも、愛車の姿を眺められる設計だ。



1600個の木レンガを敷き詰めて完成したという古賀邸のガレージ写真左手の奥には、個室となるホビールームも設けられている。

かつてはあたりまえだったMT車も、時代の流れと共にAT車の割合が増加、いまとなつては年間に販売される新車の98.5%がAT車だ。合わせて新規の運転免許合格者数の過半数もAT限定免許となっている。MT車はもちろん、そのクルマを運転できるドライバーもまた、年々減り続けている。そんなご時世に、ご夫婦が揃ってクルマ好きというのもこれまた珍しい。それも揃ってMT車を足代わりにするというのが、愛知県知多市に住まいを構える古賀さんご夫妻だ。

2019年9月に竣工したという住まいは、ガルバリウム鋼板を外壁材として採用したモダンな一戸建て。建築施工は

半田市の「岩橋建築」が担当し、傾斜のある107坪の土地を有効活用し、スキップフロアの住まいを完成させた。ガレージは建築の当初から計画に盛り込まれたもので、車両2台を十分に格納できるビルトインタイプを住まいの一角に設けている。

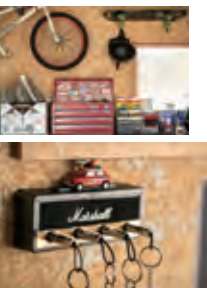
オーナーの古賀さんによれば、「飾って眺めるよりも、使えるガレージ」がコンセプト。リビングから吐き出しの大きな窓で区切られたガレージには、ご夫婦が共有するホビールームも設けられており、コロナ禍においてはリモートワークスペースとしても重宝したという。

ユニークなのはその床面だ。「岩橋建築」により敷設されたフロアは、基礎

コンクリートの上全面に、木レンガがしきめられている。隣り合うレンガとの間にはうまい具合に隙間もあるので、雨の日に帰ってきて車体から伝い落ちる雨水を床下に溜めてくれるため、フロアの表面に水が溜まることもないそうだ。

このガレージに納まる愛車は、マツダ・ロードスター（NB）とルノー・カンゲー。前者は主にご主人の足として使用されるが、時にはサーキット走行も楽しめる趣味の1台。走ることが大好きだという奥様が、ロードスターで出勤することもあるそうで、こちらもまた夫婦共同で使用している。ふたりの念願だったガレージは、古賀邸においてなくてはならない最も大切なスペースでもあるのだ。

壁面と天井の両方向にダウンライトを設置。壁面はOSB合板。2台分のガレージの開口部を一度に開閉する大きなガレージドアは電動機でコントロールするオーバースライダーだ。



カンゲーとロードスターの2台が格納されるガレージ。真っ黒なガルバリウム鋼板とシルバーの車両で統一。カラートーンもしっかり合わされている。